

風待ちの駅

福山の街の象徴的な駅である福山駅だが、立地の良さなどの利点があり生かされておらず、また、利用者の多さに反して、様々な問題を抱えている。

この計画は、福山の将来に駅は、街や人、自然環境とどのような関係であるべきかを考え、福山市に「ミライの駅」を提案するものである。



■計画敷地について



↑写真-2 計画敷地



↑図-3 計画位置 ↑写真-3 福山城

福山駅は、広島県東部にある福山市の中心に位置する駅である。広島市と岡山市の中間都市として発展し、一日の利用者は約4万人で広島県では広島駅に次いで2位である。福山市周辺観光の要であり、福山エリアの駅では最も大きい。

また、駅と城がかなり近いという珍しい特徴を持っており、駅から福山城を写真に収めるために駅を訪れる人もいられるほどだ。

しかし、そんな利点がありながら福山駅とその周辺には様々な問題が発生しており、

- 1) 立地条件が活かされていない
- 2) 待ち時間を過ごす場がない
- 3) 駅構内が使いづらい
- 4) 駅自体に魅力がない
- 5) 排気と緑の少なさによる空気汚染

などがある。

↓図-2 福山みらい創造ビジョン駅周辺目標指数



『福山みらい創造ビジョン』とは、福山市が2025年に向けて進めている政策で、中には、福山駅やその周辺についてのものもある。

当計画では、この『福山みらい創造ビジョン』も参考にし、福山駅がこれからの福山市にとってどのような駅であるべきかを考え、設計していく。

例えば、施策の中には福山駅周辺の玄関口機能の強化や戦略的な観光復興、また、環境にやさしいまちづくり等、計画に利用できる挑戦が多々ある。

■計画目的について

当計画は、福山駅に存在する問題点を改善し、『福山みらい創造ビジョン』に則り、周辺環境へ配慮しつつ、待ち時間を心地よい風を受けながら有意義に過ごすスペースを提案し、福山に住む人も観光などで訪れた人も駅に滞在することを楽しめる空間にすることを目的とする。駅としての利用以外の、「みらいの福山市」という都市にあるべき新しい駅のかたちを提案する。



写真-1 福山駅

■福山みらい創造ビジョンについて

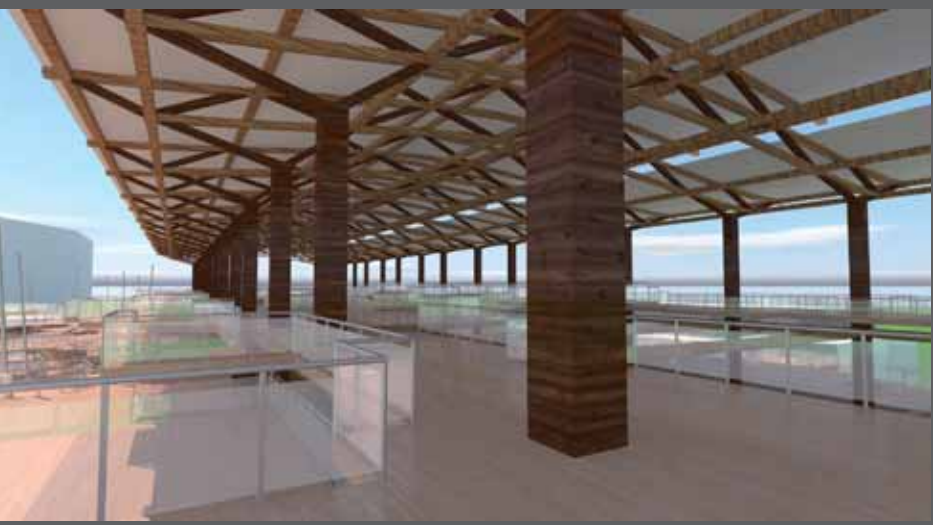


↑図-1 福山みらい創造ビジョン施策体系

■計画の基本方針について

- 1) 省エネ・自然エネルギーを利用する
風道、庇、デッキ、地下空間利用、その他
- 2) 城址公園との関係に配慮する
- 3) 城址公園と南側のプールパールに連続する緑化
- 4) 駅構内の使いやすさの改良
- 5) 既存の駅の構造体は極力残し北面と南面に既存の駅を
挟み込むようにデッキ部分を設ける
- 6) 人の佇まいと心地よい環境との関係を構築する

この6点を中心に計画を進めていく。

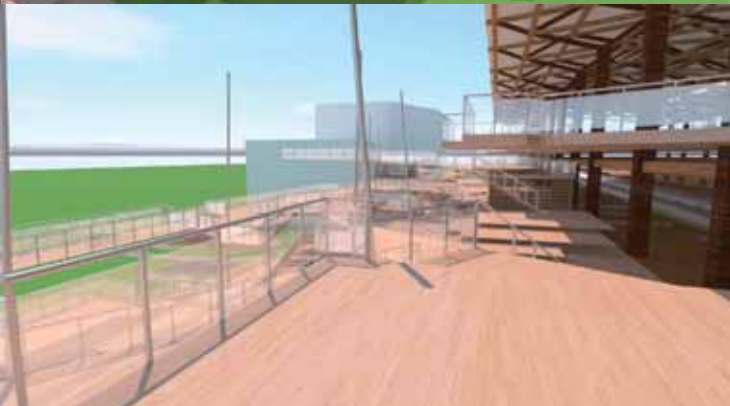


↑ 駅俯瞰パース図

■自然層流と空間から家具までに対応するデッキのデザインと機能について

デッキのデザインには、積層を利用する。基準となるフロアラインのデッキのほかに、何枚も床や階段などの機能を持つ板を、隙間をあけて重ね、デッキを3次的に利用することができるように計画する。持たせた隙間によって空気の流れは遮らず、駅内部に涼しい風を送る。また、層の重なり方によっては、一部いすやテーブルのように利用することができ、駅の利用者は様々な機能を持ったデッキを自身に合った方法で利用することができる。

← 四階デッキパース図

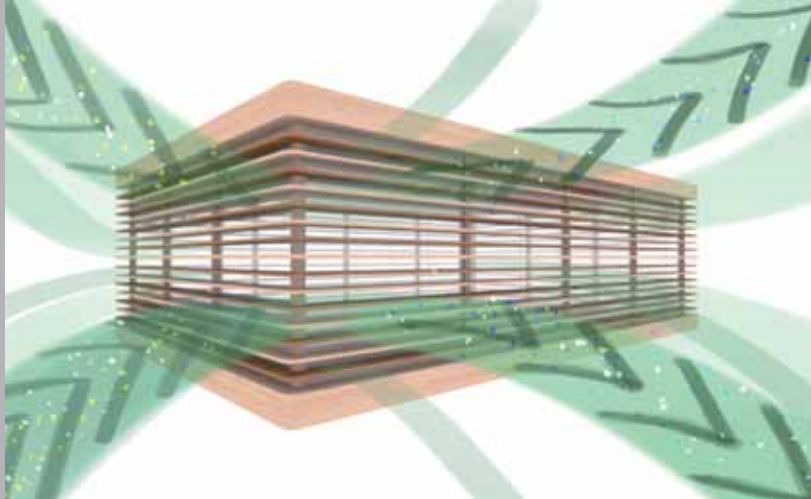


■省エネ・自然エネルギーの利用について

■建築・空間の構成について

省エネ・自然エネルギーの活用については、まず、影と風の利用がある。名護市庁舎を参考に風の通り道を駅構内に設ける。風の通り道には庇兼デッキによって影を落とし、涼しい風を駅構内に入れる。地下には空気を取り込み、夏は冷気として、冬は暖気として空調に利用することで、夏も冬も電気の使用を抑えることができる。一階から三階のデッキとプラットホームには、直接空調は行えないので、ガラスボックスをいくつか設け、その中で空調を行う。

既設の駅の構造体は、一部補強を行いながら極力利用し、デッキは南面と北面で異なる方法で取り付ける。南面は、鉛直力のみを負担する細い柱を利用し、北面は、駅の構造体にブラケット的方法と最小限の柱で取り付ける。この建築方法をとることにより、南面は前方に大きくせり出したデッキを太い柱による圧迫感なしに建築が可能になり、北面ではあまり大きくは取れなかった駅北の敷地に広くデッキの空間をとることができる。また、どちらも駅を通る風の邪魔にならないようになっている。



↑ ガラスボックス外観

↓ ガラスボックス内観例

一階ガラスボックス内観例



二階ガラスボックス内観例



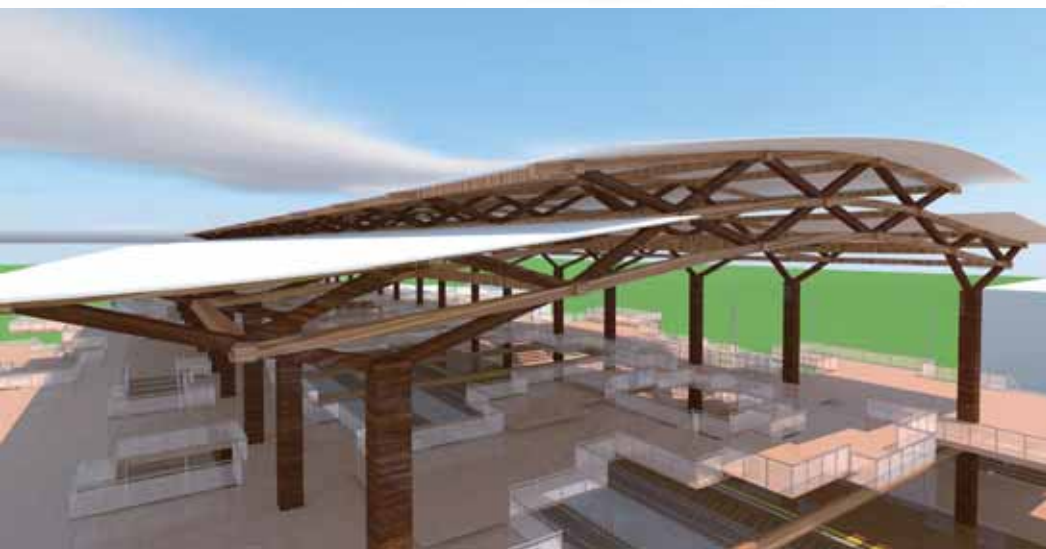
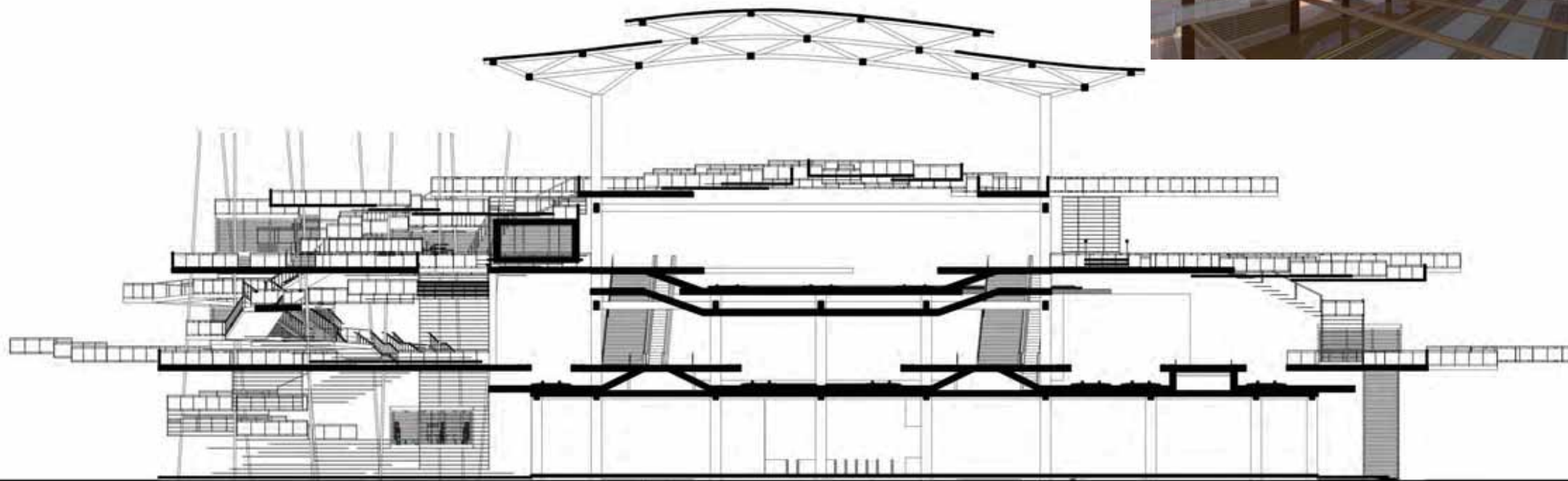
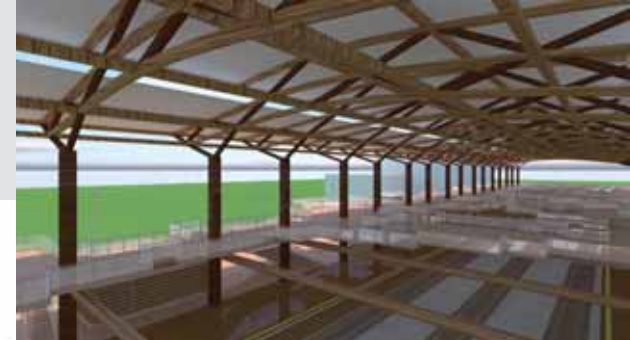
三階ガラスボックス内観例



■ 建築・空間の構成

既設の駅の構造体は、一部補強を行いながら極力利用し、デッキは南面と北面で異なる方法で取り付けられる。南面は、鉛直力のみを負担する細い柱を利用し、北面は、駅の構造体にブラケット的方法と最小限の柱で取り付けられる。

この建築方法をとることにより、南面は前方に大きくせり出したデッキを太い柱による圧迫感なしに建築が可能になり、北面ではあまり大きくは取れなかった駅北の敷地に広くデッキの空間をとることができる。また、どちらも駅を通る風の邪魔にならないようになっている。



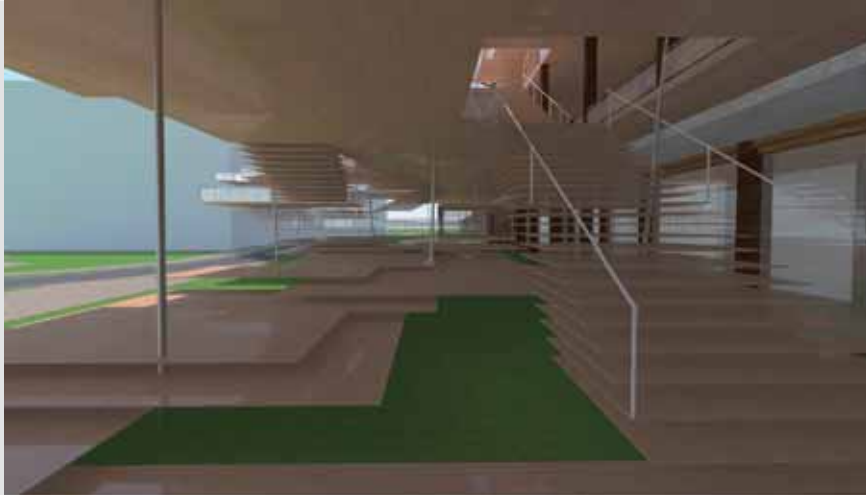
↑ 断面構成・風の通り

■ 風と影のデッキの断面構成について

駅の南北面にデッキを設け、駅の機能を拡張する。デッキには、乗り換えスペース、休憩スペース、ギャラリー、ショップ等を計画する。南側では、直遮光を遮る役割と、北側では、城壁に近づけるデッキとして活用する。南北ともに、デッキに休憩スペースとギャラリーを設け、福山駅周辺の街や、福山城を眺めることができる。

デッキのデザインには、積層を利用する。基準となるフロアラインのデッキのほかに、何枚も床や階段などの機能を持つ板を、隙間をあけて重ね、デッキを3次的に利用することができるように計画する。持たせた隙間によって空気の流れは遮らず、駅内部に涼しい風を送る。また、層の重なり方によっては、一部いすやテーブルのように利用することができる。駅の利用者は様々な機能を持ったデッキを自身に合った方法で利用することができる。本を読んだり、寝そべってみたり、はたまた運動に使ったりすることもできる。

一階 南面 デッキ



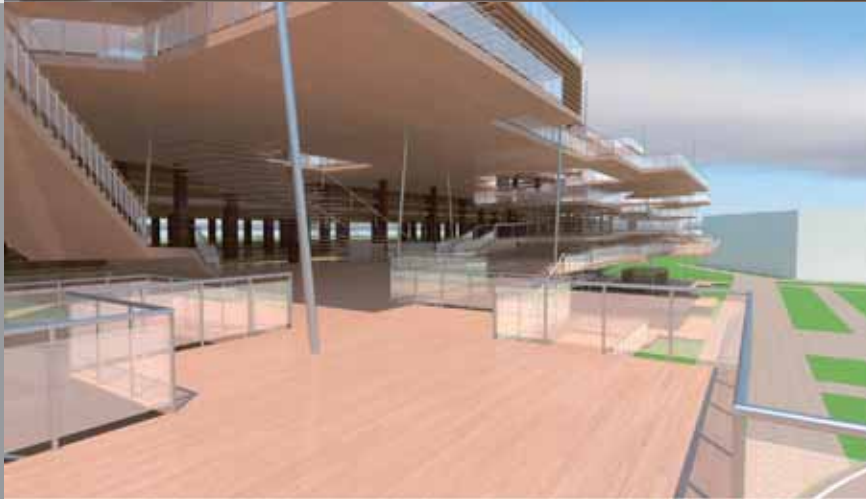
← 一階南面デッキパース図

■南面一階デッキについて

南面一階デッキでは、大きめの床を重ね、広いスペースを各層に設け、駅まで来た人がすぐに自分だけの場所を見つけてくつろげるように構成している。また、南面の階層に共通して上の階に上がる際様々なルートをとれるようになっている。



二階 南面 デッキ



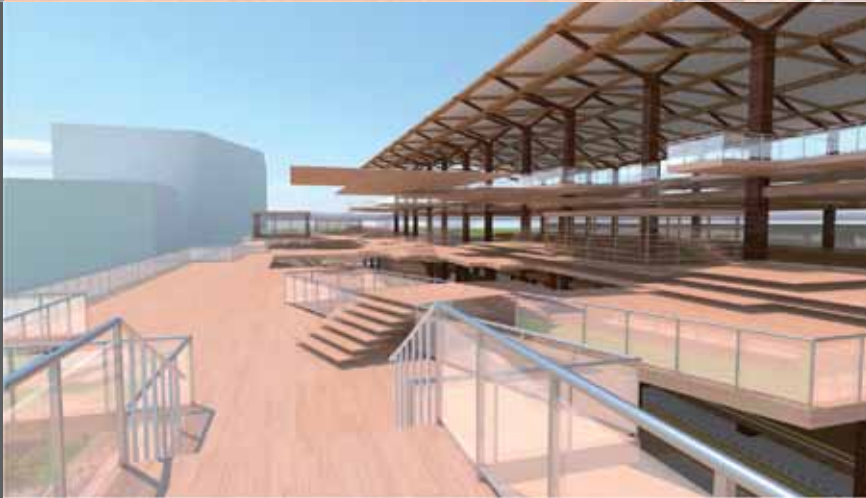
← 二階南面デッキパース図

■南面二階デッキについて

南面二階デッキでは、階段とスロープ、ガラスボックスの上などを利用して、迷路や山道のような、別の階に移動することを楽しめるように構成している。さらに、ガラスボックスを3つ設置して、待ち時間を落ち着いて過ごしたい人も自由に使える。



三階 南面 デッキ



← 三階南面デッキパース図

■南面三階デッキについて

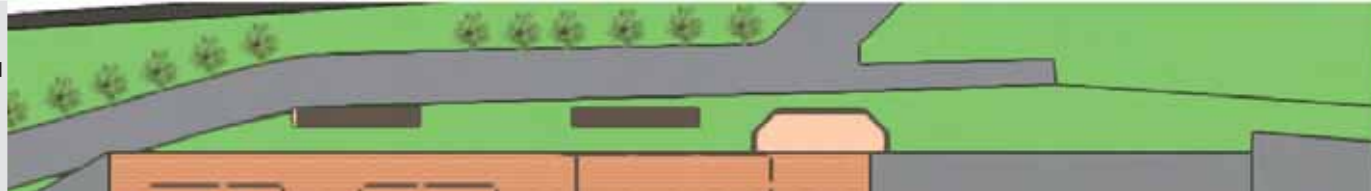
南面三階デッキでは、福山駅南の景色を明るいデッキで楽しめるようになっている。また、屋根のあるスペースも同時に設け、ガラスボックス内と屋根のあるスペースから休憩する場所を選べるようになっている。



一階 北面 デッキ



← 一階
北面
デッキ
パース図



■北面一階デッキについて

北面一階デッキでは、デッキとは書いているがデッキではなく階段のみが二つある。北面の敷地にはデッキを置くほどの余裕がないため二階以降によって機能を拡張する。

また、北面デッキに共通する特徴として、複数の階段によって階層の移動を行うようになっている。

二階 北面 デッキ



← 二階
北面
デッキ
パース図



■北面二階デッキについて

北面二階デッキでは、主に福山城の石垣の近づけることを目的としている。デッキに共通する休憩スペースなどの機能も持たせながら、自らの手で触れるほど近づけるようにデッキのかたちをデザインし、そ

の上に椅子とテーブルを兼ねる板をいくつか設置した。石垣とその上に見える建物を休憩しながら眺めることができる。

三階 北面 デッキ



← 三階
北面
デッキ
パース図



■北面三階デッキについて

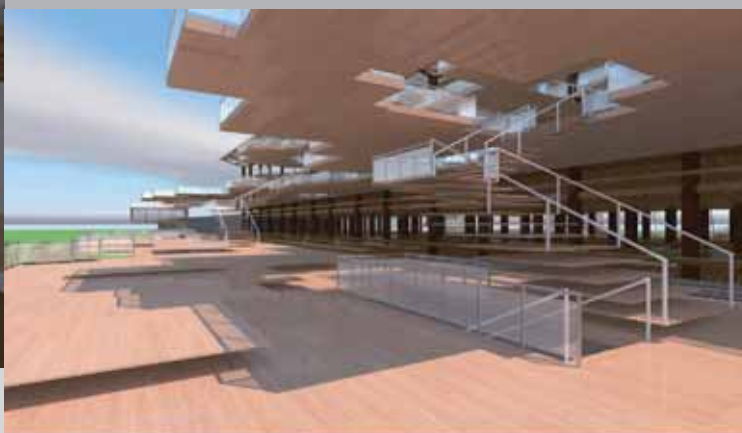
北面三階デッキでは、福山城に近づける特徴は変わらず、高さがあるので福山城本体を眺めることができる。福山駅の新幹線用プラットフォームから見る福山城はきれいに見えるが、今までは上まで行

きづらく、写真を撮るだけでも入場料が必要だったが、利用者ではない人も、今までより近い位置で遮蔽物なく眺めることができる。三階にも椅子兼テーブルがいくつか設置してある。

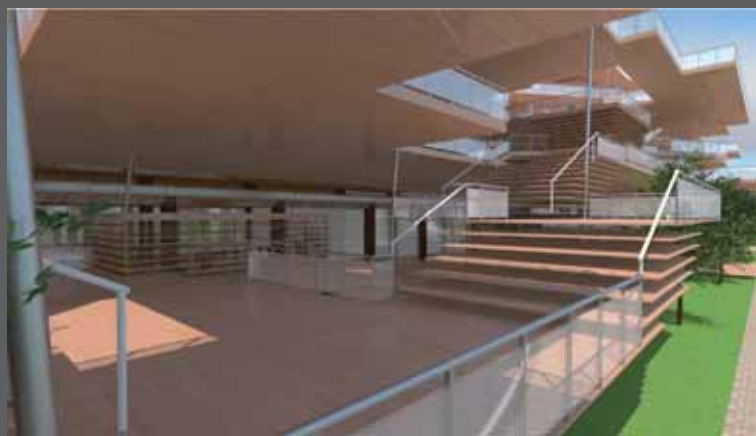
一階北面デッキパース



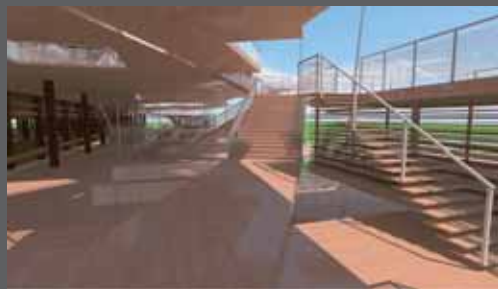
一階北面デッキパース



一階南北面デッキパース



■ 南面デザインと機能





■北面デザインと機能

